

<p>平成29年 2月27日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>3月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
------------------------	-------------------------------	--------------------------------

種もみ消毒後の廃液は河川等に流さないようにしましょう！

< 目 次 >

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病虫害】</p>	
<p>イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p>	
<p>イチゴ・促成トマト：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p>	
<p>【その他の病虫害】</p>	
<p>イチゴ，促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，春ハクサイ，春レタス・・・・・・・・ 2</p>	
<h3>II. 今月の気象予報</h3>	
<p>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">茨城県病虫害防除所は、平成29年2月20日(月)に事務所を移転しました。 移転先：茨城県笠間市安居3165-1園芸研究所内</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel : 0299-45-8200 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, 寄生葉率(本年値 15.6%, 過去8年平均値 17.6%), 被害葉率(本年値 11.9%, 平年値 15.6%)ともに平年並である。なお, 一部圃場で多発生を認めている。
- ② 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年並か高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 気門封鎖剤以外については, 薬剤抵抗性の発達を抑えるため, IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお, 薬剤散布は, 古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は, 薬剤の影響日数等に十分注意する。

イチゴ・促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い (イチゴ)	県下全域
	やや多い(促成トマト)	

[予報の根拠]

- ① 2月下旬現在, イチゴにおける発病果率は平年よりやや高く(本年値 0.14%, 平年値 0.05%), 発病株率は平年並(本年値 1.3%, 平年値 1.0%)である。
- ② 2月下旬現在, 促成トマトにおける発病果率は平年より高く(本年値 0.14%, 平年値 0.04%), 発病株率は平年よりやや高い(本年値 2.7%, 平年値 2.4%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので, 暖房, 送風, 換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き, ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, FRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は, 晴れた日の午前中に行う。また, 曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は, くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	2月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	2月中旬現在，平年並の発生である。
促成キユウリ・促成トマト	コナジラミ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成キユウリ	べと病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや少ない	2月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	褐斑病	発生量：やや少ない	2月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月中旬現在，平年並の発生である。
春レタス	菌核病	発生量：やや少ない	2月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	腐敗病		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2月25日から3月24日)

気象庁 (2月23日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	50	30	20
	日照時間	関東甲信全域	10	30	60

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

< 1 週目の予報 > 2月25日(土曜日)から3月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 2 週目の予報 > 3月4日(土曜日)から3月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3月11日(土曜日)から3月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポートを参照してください。